

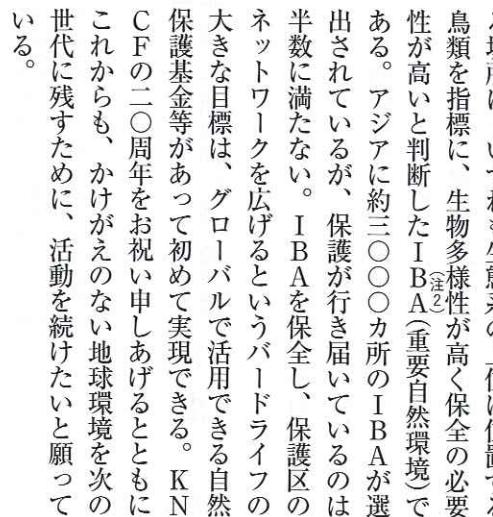
フィールド調査をする筆者

たワークショップでは、解析方法や情報源、事業計画についての意見交換を行い、経過をCOP10のKNCF支援プロジェクト活動発表会で紹介した。インドや台湾ではすでに選定活動が始まっている。日本でも、日本野鳥の会と協働で、カンムリウミスズメ等を指標に、マリンIBAの選定作業を進めているところである。

地域との親近感や一体感を醸成

地域との親近感や一体感を醸成

KNCFが対象とする国や活動は多岐にわたりっている。バードライフは一四カ国で活動



かけかえのない地球環境を
次の世代に残すために

しており、どの国にも門戸が開かれていくと
いう「多様性」は大変にありがたい。団体の
立ち上げや基礎づくりに、あるいは新たな發
展の機会に活用できる。また、相手は自然で
あり、予定した活動の延期や見直しを余儀な
くされることが多くある。現場を知るNGO
が柔軟に対応することで、最良の成果を出す
ことが可能となる。さらに、助成事業地への
視察が組まれていることも、受け手にとって
名譽なことである。日本から遠く離れた途上
国まで、視察に来てくれたことは地域住民の
誇りとなり、単なる寄付金の授受を超えた親
近感や一体感の醸成につながっている。

海鳥を指標とする重要海洋環境（マリーシーバイオ）の選定

として環境省技術委員会のメンバーに連なることになった。活動地のクアラ・セランゴール自然公園は、ラムサール条約登録地への加盟が検討されている。これらの成果は、いざれもCOP10（生物多様性条約第一〇回締約国会議）の国別報告書で報告された。

自然保護に携わる人材育成と、自然保護のあり方を総合的に考え、実践するものであつた。

東ティモールでの 重要自然保護地域の選出と管理

ア・ディビジョン(以下、バードライフ)は一九二二年に英國で発足した環境NGOバードライフ・インターナショナルのアジア部門である。二〇〇二年に東京に事務所を開設し、アジア一四カ国のパートナー団体と協力してさまざまな環境保全活動を推進している。日本経団連自然保護基金(KNCF)からは、設立当初より多大なるご支援をいただいてきた。バードライフの一〇年のあゆみは、KNCFの支援を受けた活動の足跡でもある。それらを振り返り活動の成果を紹介したい。



KNCFの助成で実現した東ティモール初の国立公園 ニノ・コニス・サンタナ。熱帯雨林からサンゴ礁まで、原生自然12万haが保全されることになった



ベトナムの固有種で、絶滅が危惧されるコサンケイ(キシ科)。中部地域の標高600m以下の湿潤林に生息する。

日本経団連自然保護基金が広げた IBAのネットワーク

バードライフ・インターナショナル

ハートディノ・インターナショナル・アジア・ダイビング代表
鈴江恵子

鈴江恵子
すずえ けいこ

(注2)IBAは、国際的な環境保全団体であるBirdLife Internationalが、世界160カ国以上の加盟団体と共同実施している事業。「鳥類を指標とした重要な自然環境」を、世界共通の基準(IBA基準)によって選定し、個々の生息地はもちろんのこと、それらすべての生息地をネットワークとして世界全体で保全していくことを目的としている。

(注1)IBA(Important Bird Areas)：①世界的に絶滅のおそれのある種の生息地、②世界的に生息地が限定された固有種の生息地、③大規模生息地(渡り鳥の中継地や越冬地、世界的にみて重要な森林等)の3つをあわせたもので、保全すべき優先度が高い場所を指す